

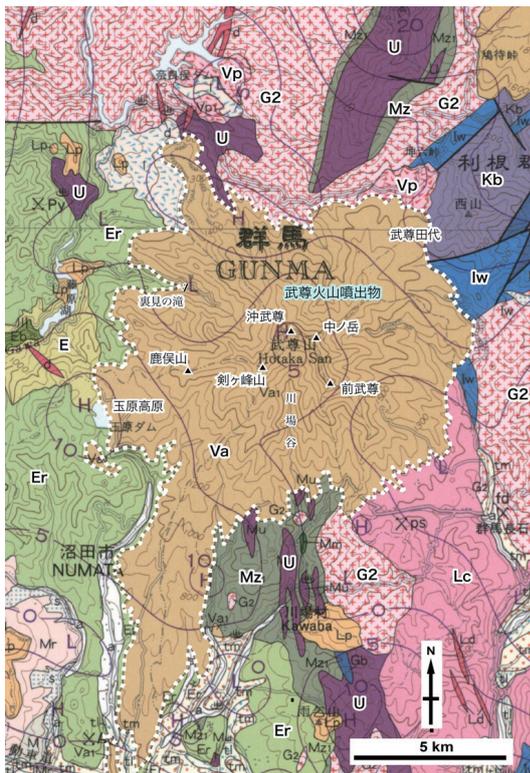
武尊山

中野 俊¹⁾

さすが火山国，日本。百名山の約半数は第四紀の火山から構成されています。この武尊山もその1つです。この山は北アルプスの穂高岳と区別するために、上州（上野国 = ほぼ群馬県）に位置することから「上州武尊」と呼ばれることが多いようです。また、この山は標高が2,000 mを超すにもかかわらず、国立公園でも国定公園でも、また県立自然公園でもない極めて珍しい山で、このような山岳は百名山では唯一ではないでしょうか。また、周辺を谷川岳や至仏岳、赤城山、日光白根山などの名高い山々に囲まれ、百名山の中では知名度も人気度もわりと低い、不遇な山です。そもそも極めて難読な地名ですね。



写真1 西南西、吾妻耶山より見る武尊山全景。山頂直下にほぼ水平な厚い溶岩層が見える。



第1図 武尊山付近の地質図。中央の白線で囲ったVaが武尊火山噴出物。1/20万地質図幅「日光」（山元ほか，2000）の一部に、地名や地質記号などを加筆した。周辺の地層は、Vp: 前期更新世前半の火砕流堆積物、Er及びLc: 中新世の火山岩、E: 中新世の堆積岩、G2: 白亜紀～古第三紀の花崗岩類、lw: ジュラ紀の堆積岩、Mz及びKb: ペルム紀の堆積岩・火山岩、U: ペルム紀の超苦鉄質岩（蛇紋岩）。なお、地質図では武尊山を「ほたかさ」と書いているが、「ほたかやま」が一般的。

火山といっても、もちろん活火山ではありません。今から100万年前以上前に火山活動が終了した古い火山ですので、多くの方はここを火山とは認識していないでしょう。唯一、あえて火山らしき地形の名残を挙げるならば、川場谷の川場谷の上流・源頭部を囲んで、西から時計回りに剣ヶ峰山（西武尊）、沖武尊（最高峰，2,158 m）、中ノ岳、前武尊などと連なる稜線を連ねる、東西の直径2 kmほどの南に開いた馬蹄形の地形があります（第1図）。この川場谷の奥には白色や灰色に岩石が変色した熱水変質帯があり、また、その中央部にはマグマの通り道（火道）を埋めて堆積したと考えられる火道角礫岩と呼ばれる岩石もあります。これらのことから、この馬蹄形の地形は古い時代にこの火山の山頂部が崩壊してできたカルデラの名残と考えられています（山口，1981）。おそらくこのカルデラ形成以前も以降も、この付近が火山活動の中心だったのでしょう。上州武尊を構成する岩石の多くは安山岩質の溶岩流あるいは火砕流、火口周辺に降り積もった降下火砕物です。これらが何層も積み重なっていることから、繰り返し噴火活動が続いて高く成長した成層火山（複成火山）であることがわかります。

もともと裾野があまり広がらなかったのか、それとも浸食されてしまったのか、上州武尊には南の赤城山に見られるような広い緩傾斜の裾野は見られず、比較的急峻な地形

1) 産総研 地質調査総合センター活断層・火山研究部門

キーワード：上州武尊，武尊山，百名山，第四紀火山，安山岩



写真2 武尊山北西部に位置する裏見の滝。武尊火山から流れた厚い安山岩溶岩の層にかかる、落差約50mの直瀑。溶岩層には水平に近い板状節理が発達。硬い溶岩層が懸崖となって、下位の軟らかい火砕物層に滝壺ができています。



写真3 沖武尊山頂の板状節理の発達した安山岩溶岩と山名の由来となった日本武尊（やまとたけるのみこと）の銅像。

の孤立した山となっています。もともとの火山の原地形に近い場所は、北東の武尊田代付近や西の鹿俣山から玉原にかけて広がる緩斜面くらいではないでしょうか。この山を遠望すると、山頂付近にはほぼ水平な層が見えますが、こ



写真4 玉原高原付近のブナ林。夏（左写真）も冬（右写真）も気軽にブナ林を楽しむことができる。そのほかにアスナロ、タムシバやウリハダカエデなどの樹木のほか、湿原ではミズバショウやキンコウカなどの湿原性植物が多い。

れは厚い溶岩などの火山岩層が累重した成層構造です（写真1）。どの登山道から山頂をめざすにしろ、時には板状節理の発達した安山岩溶岩（写真2、写真3）の急崖を越えながら登ることになりますが、要所には鉄製の頑丈な鎖がかかっており、安全に登ることができます。

現在、武尊山の中腹から山麓には、北西側から反時計回りに、宝台樹、たんばら、川場、オグナほか、武尊牧場の5ヶ所のスキー場が運営されています。上越国境に近いため、豊富な積雪とそれにより発達したブナ林（写真4）を中心とした豊かな植生が特徴となり、多くの人々に親しまれている地域です。特に西麓の玉原高原にある「小尾瀬」とも呼ばれる玉原湿原は、四季を通して多くの人々が訪れています。

文 献

山口尚志（1981）武尊火山の地質。地質学雑誌，87，823-832。

山元孝広・滝沢文教・高橋 浩・久保和也・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久（2000）20万分の1地質図幅「日光」，地質調査所。

NAKANO Shun (2015) One hundred mountains in Japan in geology; Mt. Hotaka.

（受付：2015年6月24日）